

# ふくしま県人会だより

第 9 号  
平成 16 年 1 月  
福島県人会  
北海道連合会

新年のごあいさつ

会長 長谷川 顕



新年明けましておめでとうございます。

県人会員の皆様にかかれましては、輝きに満ちた新年を迎えられましたことと推察しお慶びを申し上げます。昨年五月には佐藤知事ご夫妻のご臨席を賜り、川湯温泉にて北海道連合会総会が浜中町、別海町両県人会の皆様に変なご苦勞を煩わし、盛大かつ有意義な総会を開催できましたことに敬意を表し厚くお礼を申し上げます。

また九月には、苫小牧県人会創立十五周年記念式典及び祝賀会を催され、会員のより一層の絆と親睦を図

られたことに対し、お慶びとお祝いを申し上げます。わざわざお招きを頂きながら出席できず欠礼しましたことに深くお詫びを申し上げます。

省みすれば、昨年は経済情勢の悪化の中、天候不順による農作物の被害、そして十勝沖地震による家屋・地殻被害、また津波による被害等天地天災の年でもありました。

不幸中の幸いでも申しませうか、会員の皆様には大きな被害もなかったとお聞きし、安堵しているところでございます。

また十一月には、二十一世紀を占う衆議院議員選挙と、めまぐるしい一年でもございました。

本年は気分も一新し、前向きな姿勢で会員一同手を携え邁進したいと願っております。

幸い今年の連合会総会は、北海道の「へそ」とも言える層雲峡温泉に於いて、旭川県人会の主権により開催されることになっております。会員皆様の心身を、大きく丸い「和」

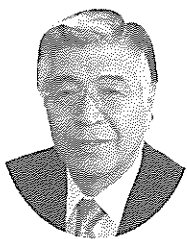
にするには最適な開催地ではないかと考えております。旭川県人会の皆様には大変ご苦勞をお掛けしお世話になります。何卒宜しくお願いいたします。

また本年は、三年に一度の母県訪問の年に当たります。童心にかえり修学旅行の気分でご郷の兄弟、親戚、幼友達等、昔を語り元気な姿を確かめあうのも楽しみなものです。今から計画を立て、大勢の方の参加を期待しております。

最後になりましたが、会員皆様のご繁栄とご健康を祈念し新年のご挨拶といたします。

新年のごあいさつ

福島県知事 佐藤 栄佐久



新しい年の初めに当たり、福島県人会北海道連合会の皆様の御多幸を心からお祈り申し上げます。

貴県人会が昭和四十八年に結成されて以来、着実な発展を続けておら

れますことは誠に喜ばしい限りであり、また、役員をはじめ会員の皆様には、日ごろから、ふるさと福島県に對しまして格別の御支援をいただいておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

昨年は、北海道の皆様にとりまして、冷夏、台風十号、さらには十勝沖地震と、大変な出来事が起こりました。災害に遭われた方々の御心痛をお察し申し上げ、改めて心からお見舞いを申し上げます。

福島県におきましても、厳しい経済情勢の中、大型倒産や再生案件が発生するとともに、低温と日照不足により農作物に大きな被害が生じました。一方、新たな産業振興拠点となる「コラッセふくしま」が福島駅西口にオープンし、福島空港とともに十周年を迎えた会津大学において全国の高校生がコンピュータ技術を競う「パソコン甲子園2003年」を開催しました。さらには文化・スポーツなど様々な分野で当県の若人が活躍するという嬉しい出来事もありました。

社会は今、あらゆる面で大きな変革期にあります。私は、これからの時代が求めるのは、豊かさの意味をもう一度見つめ直し、地域の持つ環境、文化、自然などの資源や人と人

とのつながりを大切にしながら地域社会の再生を目指す「共生の論理」に導かれた社会であると確信しております。

こうした考え方に基づき、「一人ひとりの県民の立場に立つ」という原点をしっかりと踏まえながら、今年は特に「いのち、人格、人権の尊重」、「循環型社会の形成」、「個性豊かな地域づくりの推進」、さらには県内経済の活性化・雇用の確保と水田農業改革を柱とする「緊急課題の対応」の四分野について優先的な取り組みを進めてまいります。

また、北海道とは歴史的にも深い結びつきを有していることから、交流の輪を一層揺るぎないものとするため、昨年十一月の北海道知事さんとの懇談において、様々な分野での交流について検討を進め、双方の関係を深めていくことで合意したところであります。

厳しい社会経済情勢ではありませんが、今こそ、県民と共に二十一世紀にふさわしい地域社会の実現に向けて、着実に歩みを進めてまいりたいと考えておりますので、どうか皆様におかれましては、引き続き、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、福島県人会北海道連合会の限らない御発展と、会員の皆様

の今年一年の御健勝、御活躍をお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

いわき市「波立海岸の日の出」



## 会員通信

今年を振り返って

美幌町福島県人会 中央 政直

カレンダーも残り一枚となり、真冬がすぐそこ迄近づいて来ております。今年初めて冬特有の気象警報が出しました。

北海道へ来て半世紀あまり、毎年の事ですが、寒いのは嫌い。これから約四ヶ月雪と寒さとの戦い、長い冬を前に此の時期が一番寒さが身に沁みます。

今年一年を振り返り、連合会総会は川湯温泉川湯観光ホテルにて浜中町、別海町両県人会の担当で、福島県佐藤知事御夫妻をお迎えして盛大に開催されました。

公務御多忙の折、御出席有難うございます。私達県人を激励し、福島県の近況、福島の発展の様子や道路網の整備等お話し下さいまして、心から嬉しく、次に福島に帰るのが待ち遠しく感じております。

総会は浜中町・別海町両県人会役員の皆様様、お世話下さいまして誠に有難うございました。

美幌町県人会は、毎年七月の第三日曜日、恒例の美幌観光和牛まつりがあり、今年も網走川河畔公園にて、神野実伽、南かなこの火曜ショーなど夏のビッグイベントがありました。北海道事務所より酒井次長・大峯主査の出席有難うございました。

なんととっても美幌町県人会の一代イベントは、手作りの秋祭り出店参加です。九月四日の宵祭り、五日・六日の露天商は、楽しくもあり苦しくもあり、大変な努力です。ボランティアで御協力して下さいます。

そして、先だって十一月九日開催の福島県人会道東地区合同観楓会、これはとても悲しい思い出が残ってしまい、なんと申し上げてよいか。

毎年共に観楓会で楽しんだ別海町県人会真壁国男事務局さんが、十一月五日交通事故で逝去され、別海町県人会の参加がありませんでした。事故で亡くなられた真壁さん、本当にお気の毒、心から御冥福をお祈り致します。別海町県人会の皆様、御気落としない様にして下さるよう、みんなで助け合って県人会を盛り上げて下さい。

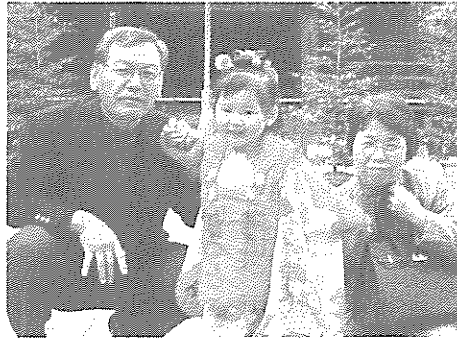
最後になりましたが、各地区県人会益々御発展を。



# 〇Bからの郵便り

充実した北海道の三年間を  
振り返って

第十三代所長 末永 弘



新年おめでとうございます。大変ご無沙汰しておりますが、福島県人会員の皆様方には益々ご健勝のことと存じます。

昨年は、冷夏で農作物の被害も大変であったと聞いております。又、地震による被害についてもテレビで放映されるたびに、浜中町の方は大丈夫かな？苦小牧市はどうかな？津波の被害は大丈夫かな？と想像し、事務所に電話すると「県人会員への被害はありませんでした」と聞いて

ホッとしました。

さて、小生が札幌の県事務所にて籍としたのが、平成九年四月から十二年三月までの三年間でしたので、北海道を離れてもう四年になるうとしております。広い北海道で、右も左も分からない小生がなんとか無事任務を勤め終えることができましたのは、何と言っても福島県人会員の皆様方の暖かいご指導とご協力のお陰であると深く感謝しております。

三年間を振り返ってみますといろいろなことが思い出されますが、何と言っても連合会総会であり、各地区の県人会総会への出席であります。特に、初めて開催していただいた美幌県人会や千歳県人会の方々の苦労は大変であったと思いますが、そのことが担当県人会の結束を高めることになったと考えております。このように、連合会総会を初めて開催しようとする県人会の準備活動に、在任中二度携われたことも県人会の皆様方との深い交流が出来た要因ではないかと思っております。

現在福島で乗っている愛車は札幌ナンバーです。実は、赴任時福島から運んだ中古車は、北海道内を走り回ったため、途中故障し、新車に更新したので、それ以降札幌ナンバーの車で走っております。従って、税金も北海道に払っております。これ

が私の北海道との係わりで密かに誇りにしていることであります。少しでも長く札幌ナンバーの車に乗っていたいと思っております。

先日、福島県と北海道との交流について、佐藤知事と高橋知事との懇談があり、「今後交流を活性化していくこと」で合意されましたので、事務所も県人会も新たな役割を担って北海道と福島県の掛け橋になっていただきますよう期待しております。今年には、母県訪問の年であります。皆様方に再会できることを楽しみにしておりますので、多数の方々の御来県をお待ちしております。

柳津町「七日堂裸参り」



いわき市「冬の白水阿弥陀堂」



## 母県の動向

北海道との交流事業を推進していくことで知事合意、新たな交流の幕開けに

佐藤福島県知事は、昨年十一月二十一日、高橋北海道知事と懇談し、北海道と福島県が各分野での交流を進め、双方の関係を深めていくことで合意しました。

相互交流の第一弾として、平成十六年度においては、両知事と両道県ゆかりの有識者によるシンポジウムの開催などを実施したいと考え、現在その準備を進めているところです。

皆様も御存じのように、両道県の関係は、会津藩士が江戸時代に北方警備のため派遣されたことに始まり、明治以降も多くの福島県人が開拓のために入植するなど、北海道発展の礎ともなっております。

また、その後も県人会・道人会を通じた交流、観光・物産面での交流などを拡大し、現在にいたっております。

このように、歴史的にみても二百年近いつながりがあり、現在も継続している両道県の交流は、今後の国

づくり・地域づくりを進める上でも意義のあることから、さらに推進していくこととしたものです。

したがって、この事業は平成十六年度単年度で終わらすことなく、教育・文化・地域の交流、産業界での交流、環境施策や人権・男女共生施策などでの連携など、現在すでに行われているものも含め、将来にわたる幅広く推進してまいりたいと考えております。

各地区県人会員の皆様には、両道県交流の先駆者として、これまで以上に御指導・御協力をお願いすることになるかと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

「パソコン甲子園2003」盛会のうちに終了

全国の高校生及び高等専門学校生が、情報処理技術における優れたアイデアと表現力、プログラミング能力等を競い合う「パソコン甲子園2003」には、全国二十一道府県から延べ二百三十七チーム（北海道内からも三校三チーム）の参加があり、IT社会を担う人材育成に向けた意義深い大会となりました。

来年度以降も引き続き開催することといたしております。

福島空港の利用促進に御協力を

今年、新千円札の顔となる野口英世博士や新撰組などで話題となっている福島へ、皆様ぜひお出でください。新千歳空港から福島空港までは、約一時間二十分です。

福島空港から県内主要都市へはリムジンバスが運行。会津へは予約制のバス「會津号」が便利です。

北海道と福島県の交流を一層深めるために、福島空港をぜひ御利用下さい。

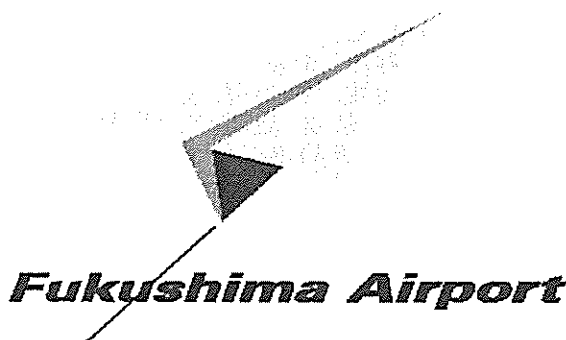
編集後記

昨年も、一昨年と同じようなことを書きましたが、平成十五年の十大ニュースも明るい話題が少なかったようです。特に北海道では、冷夏、台風十号、十勝沖地震と天災が立て続けにやってきました。

幸い県人会員の皆様には大きな被害もなく、安心しております。

今年こそ良いニュースが並ぶことを祈っております。

平成十六年度は、福島県と北海道の新たな交流時代の幕開け、事務所も忙しくなりそうです。県人会員の皆様の御協力なしにはできないことなので、これまで以上によりしくお願いいたします。



下郷町「冬の大内宿」

